

第 108 回日本精神神経学会学術総会

シンポジウム

精神病性障害関連用語の再検討

針間 博彦

(東京都立松沢病院)

精神病性障害に関連した用語のうち、訂正を要するもの、今後慎重な用語（訳語）決定を要するものの例を挙げて検討した。最近の英語圏における psychosis は「精神病」ではなく「精神病状態」という状態像診断を意味している。ICD-10 と DSM-IV-TR における paranoid は「妄想性」ではなく「自己関係付け」を意味しており、paranoid personality disorder に対する「妄想性パーソナリティ障害」という現行の日本語訳は、不正確で誤解を招く。Social withdrawal は「社会的ひきこもり」とは異なる概念であるため、「対人的閉じこもり」ないし「対人的退避」といった別の訳語を当てるべきである。用語は臨床、診断、ひいては治療に直接に影響を与えうるものであり、不用意な用語決定は誤診とそれによる誤治療だけでなく、精神科医療に対する誤解、ひいては精神障害のスティグマ化の一因となるおそれがある。

<索引用語：精神病，障害，疾患，妄想性パーソナリティ障害，社会的ひきこもり>

はじめに

精神病性障害に関連する用語のうち、psychosis の最近の用法、ICD-10、DSM-IV-TR における paranoid の意味、social withdrawal の訳語を取り上げて検討する。

I. psychosis

1. DSM における psychosis

DSM-II¹⁾では精神機能の障害の程度によって定義されていた psychosis という概念は、DSM-III²⁾でほぼ完全に破棄され、「精神病」という名詞は用いられず、「精神病性 (psychotic)」という形容詞に限定された。その意味は「現実検討の著しい障害」であり、精神病性障害は、広汎性発達障害、一部の器質性精神障害、一部の感情障害にもみられるとされた。また、DSM-IIIではいまだ病因の確立されていない精神障害に対して「疾患 (disease)」という用語を避けるため、「障害 (disorder)」という用語が統一して用いられた。こう

して、「精神病性障害 (psychotic disorders)」という呼称が出現した。

DSM-IV-TR⁵⁾における「統合失調症および他の精神病性障害」群には、統合失調症、統合失調症様障害、妄想性障害、失調感情障害、短期精神病性障害、共有精神病性障害、一般身体疾患による精神病性障害、物質誘発性精神病性障害、特定不能の精神病性障害が含まれる。ここに「精神病性 (psychotic)」という形容詞は「妄想、幻覚、解体した会話・行動、緊張病性行動」を示す記述用語として用いられている。この群は症状性、中毒性を含む、成因を問わない群になっている。

2. psychosis の復活

近年、こうした記述用語として psychosis が再び頻用されている。たとえば EPPIC⁸⁾によれば、psychosis とは現実の性質に対する誤解釈(幻覚、妄想)や解体した会話(思考障害)などを示す障害群を指す症候群であり、さまざまな原因から生

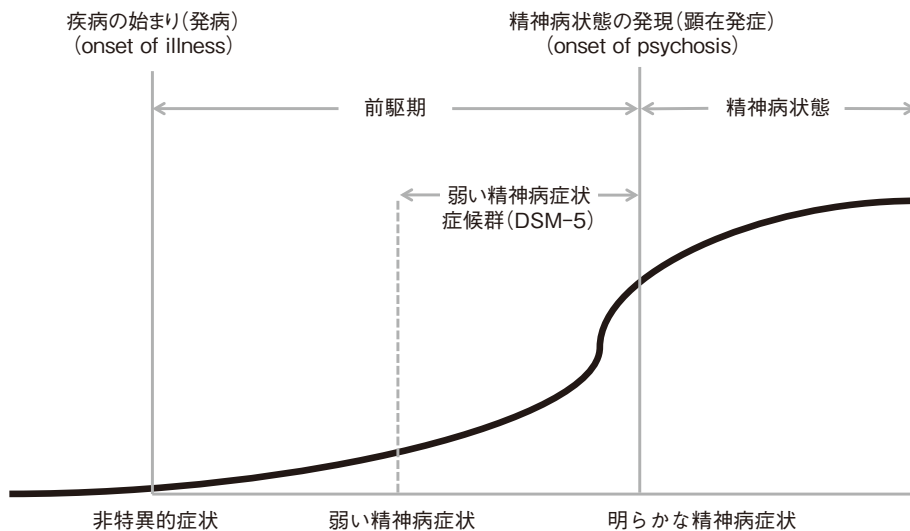


図 Psychosis (精神病状態) 発現モデル

じうる。つまり、こうした意味での psychosis は成因を問わない状態像診断であり、疾病としての「精神病」ではなく、「精神病状態」を意味する。それは DSM-IV-TR の精神病性障害を網羅する概念である。early intervention in psychosis, early psychosis⁸⁾, psychosis-risk syndrome¹²⁾ という用語の中の psychosis は、こうした意味である。DSM-5 ドラフト⁶⁾ では、この意味で psychosis という語が復活している（「psychosis とは、現実歪曲（妄想および幻覚）および重度の解体（解体した会話）によって規定される」）。

3. psychosis の多義性

英語の psychosis は、こうした状態像レベルでの psychotic state/condition（精神病状態）を意味する用法だけでなく、文脈によって症状レベルでの psychotic symptom（精神病症状）を意味することも（たとえば、attenuated psychosis syndrome [弱い精神病症状症候群]⁶⁾）、疾患レベルでの psychotic illness（精神病／精神病性疾患）を意味することもある。英語では depression が文脈によって depressive symptom（抑うつ症状）、depressive state/condition（抑うつ状態）、あるいは depressive illness（うつ病／うつ病性疾患）の

意味で用いられるのと同じである。

したがって、psychosis の訳語を「精神病」に統一してしまうと、「うつ病」にまつわる現在の混乱と同様な問題を生じるおそれがある。たとえば、early intervention in psychosis とは精神病状態の発現すなわち顕在発症に対する一次予防、二次予防であるが（図）、これを「精神病早期介入」という日本語にすると、疾患／疾病に対する一次予防、二次予防であるかのように誤解され、不要な批判にさらされるかもしれない。また、DSM-5 ドラフト⁶⁾ の中で提案された attenuated psychosis syndrome は、「弱い精神病症状からなる症候群」との意味であり、「弱い精神病」でも「弱い精神病状態」でもない（すなわち、精神病（状態）である／になるとは限らない）。psychosis を「サイコーシス」とカタカナ読みにしても、これらの誤解を解決することにはならず、逆に問題が曖昧にされるであろう。解決策は psychosis が上記のいずれの意味で用いられているのかに常に留意し、それを明らかに示す複数の訳語を使い分けることであろう。

4. 「障害」「疾患」「疾病」との区別

ところで、「精神病」に関連して混乱が生じやす

い概念に、「障害」、「疾患」、「疾病」がある。「障害」は disorder と disability という2つの意味がありうる。前者は ICD-10²⁰⁾によれば、「ほとんどの例で苦痛と個人生活上の支障を伴う症状や行動の臨床的に認識可能な組み合わせ」であり、後者は WHO¹⁸⁾によれば「機能障害 (impairment)、活動制限、参加制約を網羅する傘概念」である。つまり、disorderがあることは必ずしも disabilityがあることを意味しない。だが日本語では mental disorder が「精神障害」、person with mental disability が「精神障害者」と呼ばれているように、disorder と disability は明確に区別されていない。これは disorder の訳語である「障害」がスティグマ化する一因とも考えられる。

DSM-IV-TR, ICD-10 では、器質性、症状性精神障害の身体的側面に対してのみ disease (病) という語を使用し (例: アルツハイマー病型認知症)、精神的側面に対しては disorder (障害) という語が用いられる。いずれも表題では “Mental Disorders” (精神 (の) 障害) と表記されている。DSM-IV-TR 日本語版の表題のようにこれを「精神疾患」と表記すると (スティグマ化した「障害」という語を避けたのであろうか)、あらゆる精神障害が「疾患」であるかのような印象を与えるおそれがある。disorder と disability の訳語を明確に区別したうえで、disorder と disease の混同を避けるべきである。

DSM-IV-TR には illness (疾病) という概念がある。たとえば、統合失調症の疾病期間は前駆期、活動期、残遺期からなる。このうち psychosis に相当するのは、活動期のみである。だが psychosis に対する「精神病」という日本語は、同じ「病」であるだけに、「疾病」と誤解されるおそれがある (ただし、たとえば Schneider¹⁵⁾の意味での伝統的な「精神病」は、「疾病」や「疾患」と言い換え可能である。こうした「精神病」と現在の psychosis は異なる概念であることに留意すべきである)。すると、たとえば duration of untreated psychosis (DUP) は、統合失調症の場合は活動期のうち未治療の期間を示すが、これが前駆期を含むもの

と誤解され、「精神病早期介入」という語と同様の批判をもたらすかもしれない。

II. paranoid

ICD-10, DSM-IV-TR の paranoid personality disorder は妄想を有しないにもかかわらず、「妄想性パーソナリティ障害」と日本語訳されている。なぜこうした誤解と混乱を招く事態が生じたのであろうか。

1. paranoia と paranoid

本来、パラノイア paranoia は para (“beside, by”) + no (“mind”) + ia (“state, disorder”), すなわち「精神がずれている病態」を意味する。paranoid は paranoia + oid (form, resemblance) であり、Kraepelin はこれを paranoia に似て非なるもの、すなわち「類パラノイア性」との意味で用いた¹⁷⁾。

英語圏では、paranoid は必ずしもこうした正確な意味で用いられなかった。たとえば英国の Fish⁹⁾は、すでに1967年に「英語圏の精神科医は“paranoid”を被害的、猜疑的、敵意のあるといった意味で用いているが、その本来の意味は“like paranoia” (パラノイアのような)、すなわち“delusional” (妄想性) である」と指摘している。

2. DSM における paranoid

DSM-III²⁾では、paranoid は paranoid disorder という用語の中では本来の意味で用いられた一方、paranoid personality disorder の中では Fish が指摘した不正確な意味で用いられた。DSM-III-R³⁾では、paranoid の用法に関するこうした混乱を解決するため、いずれかの呼称の変更が検討された。その結果、前者は delusional (paranoid) disorder と表現され、paranoid は括弧に括られた。一方、paranoid が不正確な意味で用いられた paranoid personality disorder という呼称は、変更されなかった。その理由を DSM-III-R は「“paranoid” は英語では通常、猜疑心のみを意味するため」と説明した。DSM-IV⁴⁾では、delusional

表1 “paranoid” が用いられている診断カテゴリー (ICD-10, DCR)

• Paranoid attitude (パラノイド的態度)
—F01 血管性認知症
• Paranoid ideation (パラノイド観念形成)
—F07.0 器質性パーソナリティ障害
—F12.0 大麻類使用による急性中毒
—F14.0 コカイン使用による急性中毒
—F15.0 カフェインおよび他の精神刺激薬使用による急性中毒
—F16.0 幻覚剤使用による急性中毒
—F13.3 鎮静薬や睡眠薬による離脱状態
• F20.0 Paranoid schizophrenia (妄想型統合失調症)
—paranoid delusions (パラノイド妄想)
—paranoid symptoms (妄想型の症状)
• Paranoid idea (パラノイド観念)
—F21 統合失調型障害
• F60.0 Paranoid personality disorder (パラノイドパーソナリティ障害)

括弧内は筆者による訳語

(paranoid) disorder の中の括弧付き paranoid が削除され、delusional disorder という現在の呼称になった。ICD-10²⁰⁾でもこの呼称が採用された。一方、paranoid personality disorder という呼称は存続したため、「妄想性」という意味では“paranoid”ではなく“delusional”が用いられるようになった。

3. 現在の paranoid の意味

こうして現在の英語圏では、WHO¹⁹⁾が paranoid を「1つあるいは複数の主題に関する自己関係付けの病的な支配的観念あるいは妄想を示す記述的用語」と定義し、DSM-IV-TR⁵⁾が paranoid ideation を「猜疑心や、いやがらせされている、迫害されている、不当な扱いをうけているという思い込みなど、妄想性 (delusional) よりも程度が軽い観念形成」と定義し、Sims¹⁶⁾が「精神医学では paranoid という語は“自己関係付け”を意味するようになった」「paranoid state とは自己関係付け現象である妄想様関係念慮や優格観念が目立つ精神状態である。それは不当な自己関係付けという内容を示すが、その観念の形式は限定されない」と説明するように、paranoid は本来の delusional (妄想性) ないし類パラノイア性という意味ではなく、自己関係付けや猜疑心を示す記述的用

語として用いられている。ICD-10²¹⁾では、paranoid は表1に示す用語の中で用いられている。「妄想型統合失調症」を除けば、これらの paranoid は上記のような「自己関係付け」との意味で用いられていると考えられるため、日本語訳では誤解を避けるために「妄想性」ではなく「パラノイド」とカタカナ表記するのがよいと思われる。

4. 「妄想性パーソナリティ障害」という日本語訳の問題

Paranoid personality disorder に対する「妄想性パーソナリティ障害」という現行の日本語訳は、それが診断カテゴリーであるだけに問題をはらんでいる。ICD-10における「F60.0 Paranoid personality disorder」の診断基準を要約すると、(1) 挫折や拒絶に対する過敏、(2) 持続する恨み、(3) 猜疑心と曲解、(4) 自己の権利に対する固執、(5) 配偶者の不貞に対する疑念、(6) 自己関係付け傾向、(7) 陰謀説へのとらわれであり、「妄想が生じやすい」という特徴は含まれていない。ICD-10の診断基準もDSM-IV-TRと同様に無理論的 (atheoretical)、記述的 (descriptive) だからである。paranoid personality disorder のみを有する人に妄想は存在しないのであり、妄想を呈するようになった場合、統合失調症など精神病性障害に

診断が変更される (DSM-IV-TR では、統合失調症の「病前」性格と位置付けられる)。Munro¹³⁾はこのパーソナリティ障害について、「delusional という意味で paranoid な病態ではなく、混乱を招くので名称を変えるべきである」と主張している。

「妄想性パーソナリティ障害」という日本語訳は、次のような弊害をもたらすおそれがある。妄想を有する人に対してこの診断のみが誤って与えられる可能性があるが、それは ICD-10 や DSM-IV-TR の診断方法に反しているだけでなく、統合失調症や妄想性障害と診断すべき例に対して、パーソナリティ障害であるという理由から、医療の場においては「治療可能性なし」「医療の対象ではない」、また司法の場においては「責任能力あり」という誤った判断が下されるかもしれない。

ICD-10 と DSM-IV-TR の中では paranoid が上記のように「自己関係付け」「猜疑心」という意味で用いられている以上、こうした誤診と弊害を避けるためには、paranoid personality disorder は「妄想性パーソナリティ障害」ではなく「パラノイドパーソナリティ障害」と邦訳することを提案したい。

Ⅲ. social withdrawal

Social withdrawal は「社会的ひきこもり」と訳されることが多いが、両者は意味が異なることを示したい。

1. social withdrawal の定義

WHO¹⁹⁾によれば、social withdrawal とは「対人的な相互作用とコミュニケーションを避けて閉じこもる持続的傾向を特徴とする行動パターン。それは患者の文化では通常、逸脱とみなされ、精神障害あるいは異常なパーソナリティ特性の存在を示すほどのものである」と定義される。すなわち、この social とは、social phobia, social anxiety disorder の場合と同様に、「社会的」ではなく「社交 (人付き合い) 上の」「対人的」との意味である。またこの withdrawal とは、Campbell⁷⁾によれば、「客観的な外的現実に向けることであり、

表2 social withdrawal を伴う診断カテゴリー (ICD-10, DCR)

・ F02.4 HIV 型認知症
・ F20 統合失調症 (全般基準)
・ F20.6 単純型統合失調症
・ F21 統合失調型障害
・ F23 急性一過性精神病性障害 (前駆期)
・ F34.0 気分循環症
・ F34.1 気分変調症
・ F60.1 統合失調質パーソナリティ障害
・ F62.0 破局的体験後の持続的パーソナリティ変化
・ F93.0 小児期の分離不安障害
・ F93.3 同胞葛藤障害
・ F94.0 選択的緘黙

しばしば統合失調症性の自閉の表れとしてみられる (中略)、社交と対人関係から自分の世界への退避」である。こうした対人関係のあり方は、日本語では「(自分の世界に) 閉じこもり」という表現が近いだろう。

ICD-10²⁰⁾, DCR²¹⁾で social withdrawal という語が用いられている診断カテゴリーは、統合失調症および関連障害のほか、一部の気分障害、小児期の障害などである (表2)。

なお、social withdrawal が行動面の閉じこもりであるのに対し、感情面の閉じこもりが emotional withdrawal と表現されることがある。たとえば PANSS¹¹⁾では、これは「生活上の出来事に対する関心、関与、感情的コミットメントの欠如」と定義され、陰性症状に数え入れられている。

2. 社会的ひきこもりの定義

一方、わが国における「社会的ひきこもり」の意味に目を向けると、2003年に厚生労働省が発表したガイドライン¹⁰⁾では、これを①自宅を中心とした生活、②就学・就労といった社会参加活動ができない・していないもの、③以上の状態が6ヶ月以上続いている、④統合失調症などの精神疾患の疾患、または中等度以上の精神遅滞 (IQ55-50) をもつ者は除く、⑤就学・就労はしていなくても、家族以外の他者 (友人など) と親密な人間関係が維持されている者は除く、と定義している。すな

わち、これは社会参加の回避を特徴とする非精神病性の状態である。2010年に同省が発表した「ひきこもり」の定義¹⁴⁾も、基本的にこれと同じである。

3. social withdrawal と社会的ひきこもりの違い

ICD-10の日本語版では、social withdrawalは「社会的ひきこもり」と訳されていることが多い。しかし、以上の説明から明らかであるように、対人的行動特徴を示すsocial withdrawalは、社会参加の有無を問題にしている社会的ひきこもりとは異なる概念である。対人的に閉じこもりながら就学・就労といった社会参加が保たれていることもあれば、逆に対人的な閉じこもりのない社会的ひきこもり（たとえば同居家族とのコミュニケーションは保たれている）もありうる。また、social withdrawalでは統合失調症など精神病性障害がその中心に位置付けられていることも、社会的ひきこもりとの大きな相違点である。よってこれら2つの概念の混同とそれによる誤解を避けるために、social withdrawalは「社会的ひきこもり」ではなく、「対人的閉じこもり」あるいは「対人的退避」と邦訳することを提案したい。

おわりに

精神病性障害に関連した用語のうち、訂正を要するもの、今後慎重な用語（訳語）決定を要するものの例を挙げて検討した。用語は臨床上、診断、ひいては治療に直接に影響を与えうるものであり、不用意な用語決定は誤診とそれによる誤治療だけでなく、精神科医療に対する誤解、ひいては精神障害のスティグマ化の一因となるおそれがある。

文 献

- 1) American Psychiatric Association : Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders. 2nd ed. APA, Washington DC, 1968.
- 2) American Psychiatric Association : Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders. 3rd ed. APA,

Washington DC, 1980.

3) American Psychiatric Association : Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders. 3rd ed. Revised. APA, Washington DC, 1987

4) American Psychiatric Association : Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders. 4th ed. APA, Washington DC, 1994.

5) American Psychiatric Association : Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders. 4th ed. Text Revision. APA, Washington DC, 2000.

6) American Psychiatric Association : Schizophrenia Spectrum and Other Psychotic Disorders. (<http://www.dsm5.org>)

7) Campbell, R. J. : Campbell's Psychiatric Dictionary. 9th ed. Oxford University Press, New York, 2009

8) EPPIC : Case management in early psychosis : a handbook. Melbourne, EPPIC, 2001

9) Fish, F. : Clinical Psychopathology : Signs and Symptoms in Psychiatry. John Wright & Sons, Bristol, 1967

10) 伊藤順一郎（代表）：こころの健康科学研究事業「地域精神保健活動における介入のあり方に関する研究（H12-こころ-001）」10代・20代を中心とした「ひきこもり」をめぐる地域精神保健活動のガイドライン。2003

11) Kay, S. R., Fiszbein, A., Opler, L. A. : The positive and negative syndrome scale (PANSS) for schizophrenia. Schizophr Bull, 13 (2) ; 261-276, 1987

12) McGlashan, T. H., Walsh, B. C., Woods, S. W. : The Psychosis-Risk Syndrome. Handbook for Diagnosis and Follow-up. Oxford University Press, New York, 2010

13) Munro, A. : Delusional Disorder : Paranoia and Related Illnesses. Cambridge, UK ; New York : Cambridge University Press, 1999

14) 齊藤万比古（代表）：こころの健康科学研究事業「思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究（H19-こころ-一般-010）」ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン。2010

15) Schneider, K. : Klinische Psychopathologie. 15. Aufl. mit einem aktualisierten und erweiterten Kommentar von Huber G und Gross G. Thieme, Stuttgart, 2007（針間博彦訳：クルト・シュナイダー 新版 臨床精神病理学。文光堂、東京、2007）

16) Sims, A. : Symptoms in the Mind. An Introduc-

tion to Descriptive Psychopathology (3rd ed). Saunders, London, 2003

17) 内沼幸雄：正気の発見－パラノイア中核論．岩波書店，東京，1987

18) World Health Organization : disabilities.(http://www.who.int/topics/disabilities/en/)

19) World Health Organization : Lexicon of Psychiatric and Mental Health Terms. 2nd ed, Geneva ; WHO, 1994

20) World Health Organization : The ICD-10 Classi-

fication of Mental and Behavioural Disorders ; Clinical descriptions and diagnostic guidelines. WHO, Geneva, 1992 (融 道男, 中根允文, 小見山実ほか訳 : ICD-10 精神および行動の障害－臨床記述と診断ガイドライン, 新訂版. 医学書院, 東京, 2005)

21) World Health Organization : The ICD-10 Classification of Mental and Behavioural Disorders ; Diagnostic criteria for research. WHO, Geneva, 1993 (中根允文, 岡崎祐士, 藤原妙子ほか訳 : ICD-10 精神および行動の障害－DCR 研究用診断基準, 新訂版. 医学書院, 東京, 2008)

Terminology in Psychotic Disorders Revisited

Hirohiko HARIMA

Department of Psychiatry, Tokyo Metropolitan Matsuzawa Hospital

Terms used for psychotic disorders that need to be corrected or further examined are considered. In English-speaking countries, the word *psychosis* is taken to mean not “psychotic illness” but “psychotic state”. In ICD-10 and DSM-IV-TR, *paranoid* does not mean “delusional” but “self-referent”. So *paranoid* in paranoid personality disorder should not be translated as “delusional”. Social withdrawal is a concept different from the Japanese word *hikikomori*. The two terms should not be used interchangeably. Because the terminology has a direct influence on diagnostics and treatment in clinical psychiatric practice, careless translations may cause misdiagnoses and mistreatment, as well as misunderstanding of mental health care and stigmatization of mental disorders.

< Author’s abstract >

< Key words : psychosis, paranoid, paranoid personality disorder, social withdrawal >
